

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎の問題は目標値を上回っており、特に計算力の向上がみられる。問題集やタブレットドリルなどを用いた、「繰り返し学習」を行った成果が感じられる。(2年)
- ・全国平均用いた標準スコアの値が前年度より 2.1 ポイント上昇し、2年連続で上昇した。問題集やタブレットを用いた朝学習や、授業後の振り返りによる基礎・基本の定着によるものと考えられる。(3年)

(2) 課題

- ・文章を読んで一次方程式を立式したり、文字を用いて、数学的に説明したりすることが苦手な生徒が多い。(2年)
- ・連立方程式の正答率が低い。特に、与えられた文章に対して適切な連立方程式を立式することができていない生徒の割合が多い。(3年)

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎、活用ともに目標値を下回っている。基礎は目標値との差が4.4ポイントと大きく下回っている。		
第2学年	全体として目標値を上回った。昨年度低かった基礎は目標値を上回り活用は若干下回った。	基礎は目標値を若干下回っているが、活用は目標値を若干上回っている。	
第3学年	基礎・活用ともに目標値を下回っている。特に活用は7ポイント近く下回っている。	基礎・活用ともに目標値を下回っている。特に活用は6ポイント近く下回っている。	基礎・活用ともに目標値を下回っている。特に活用は10ポイント近く下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に対して 3.6 ポイント下回っている。特に小数・分数の計算を苦手としている生徒が多い。	目標値に対して 4.9 ポイント下回っている。分数×分数の立式についての問いは目標値を 14 ポイント下回っており、苦手としている生徒が多い。	目標値に対して 3.5 ポイント下回っている。データの活用についての関心が特に低い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を僅かに上回っており、基本的な計算力は定着しているが、関数などの基礎的な理解に課題がみられる。	目標値を3ポイント下回っており、1次方程式の立式や、文字を使って数学的に説明することに課題がみられる。	目標値とほぼ同程度であり、作図を書いたり、データを読み取ったり、主体的に学習に取り組む態度は概ね身につけてきている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を8ポイント下回っており、特に一次関数のグラフや図形の性質の理解、確率を求めることについて課題がみられる。	目標値を8ポイント下回っており、特に連立方程式の文章題や証明問題の理解について課題がみられる。	目標値を9ポイント下回っており、特に一次関数のグラフや連立方程式の文章題の理解について課題がみられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校の復習を授業にも随時取り入れ、小数や分数を含めた基本的な計算方法についての理解の定着を図る。	生徒に考えさせる時間を確保し、自分の考えを説明する機会を授業内で作るようにする。	学習内容と日常生活との関わりに気づかせることで、数学に興味を抱かせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストを実施して既習事項の定着の確認、授業開始時の振り返りなどを通して、基礎・基本の定着を図る。	生徒に考えさせる時間を確保し、自分の考えを説明する機会を授業内で作るようにする。問題集やタブドリを活用し、多くの文章題に取り組むようにする。	学習内容と日常生活との関わりに気づかせることで、数学に関心や興味を抱かせるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットや問題集を用いた朝学習、授業開始時の既習事項の確認や適宜小テストを実施することを通して基礎・基本の定着を図る。また、日々の声かけから家庭学習の習慣化を目指す。	考える時間や生徒間で意見を共有する時間を多く設ける。また、問題集やタブレットを用いて、より多くの問題に取り組むことができる環境作りを実践する。	日常との関わりが深い、また、具体的な題材を扱うことで数学の有用性を感じることで数学の有用性を感じることでできる授業作りを実践する。